

自己点検_装置のお手入れについて

装置の性能を発揮させるため、動作テストや保守点検を行ってください。

また、3ヶ月程度の運転停止後は、動作テスト・保守点検を行ってください。

それ以上の期間停止された場合は弊社による各部保守点検をおすすめいたします。

<div style="display: flex; justify-content: space-between; border-bottom: 1px solid black;"> 停止中 17時30分 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; border-bottom: 1px solid black;"> 操作 モニタ 設定 警報 メンテナンス </div> <p>保守点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 電源スイッチ(漏電遮断器) ■ ウィック給水器の水位_乾湿球タイマ ■ 加湿器給水器の水位 ■ 水位検知センサー ■ 凝縮器用フィルターの清掃 ■ 湿球用ウィックの交換_乾湿球タイマ ■ 試験槽、排水溝の清掃 ■ 加湿器の清掃 	<p>➤ P計装の場合</p> <p>「メンテナンス」から保守点検の項目を選択できます。各項目をタッチすると、保守点検や動作テストの方法が表示されますのでご参照ください。</p>
--	---

1 動作テスト

⚠ 注意

通電したままカバーを開ける場合があります。
感電や火傷・裂傷の危険があるため、点検箇所以外には触れないでください。

動作テスト項目	テスト方法	確認箇所	チェック
電源スイッチ (漏電ブレーカ)	電源スイッチ横のテストボタンを押し、ブレーカが落ちると正常	電源スイッチ扉内	<input type="checkbox"/>
加湿皿給水器	加湿用ヒータおよび加湿器空焚防止器検出端が完全に水に浸っている事	槽内 吸込口カバーの奥	<input type="checkbox"/>
水位検知センサ	規定水位で作動する事	レベルタンク用 メンテカバー内	<input type="checkbox"/>
装置過昇防止器(ASP) 加熱器過昇防止器(DHP) 加湿器空焚防止器(WHP)	→1.1 保安装置の動作テスト 参照		<input type="checkbox"/>
絶縁抵抗検査	500Vメガーにて20MΩ以上あることを確認 →弊社へのご依頼をおすすめします	機械室カバー内 (サービスマンが実施します)	<input type="checkbox"/>

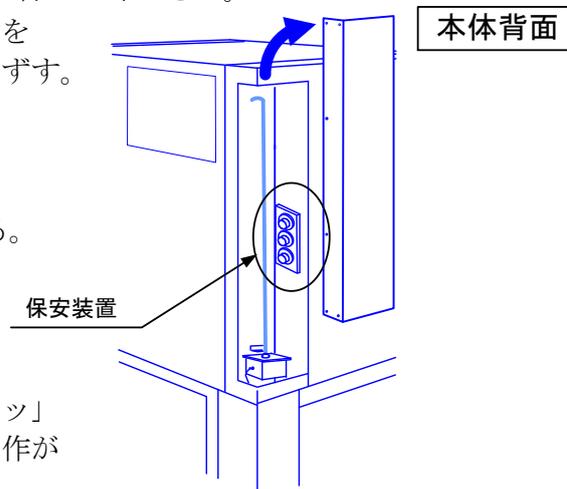
1. 1 保安装置の動作テスト

■ 保安装置の動作テストは、①～⑥の手順で行ってください。

① レベルタンク用メンテカバーのネジをドライバーで少し緩め、持ち上げてはずす。

② 電源スイッチ（漏電ブレーカ）をONにして、操作パネルを起動させる。

③ 保安装置の各ダイヤルを左に「カチッ」という音がするまで回し、下記の動作が発生することを確認する。



加熱器過昇防止器 (DHP)

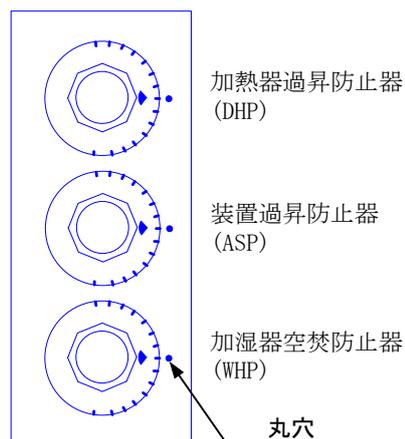
ブザーが鳴り、操作パネルに警報を示す画面が表示されます。

装置過昇防止器 (ASP)

操作パネルの表示が消えます。

加湿器空焚防止器 (WHP)

ブザーが鳴り、操作パネルに警報を示す画面が表示されます。



装置が上記動作をしない場合は、メンテナンスコールをしてください。

④ 確認後、ダイヤルのマークを丸穴(初期設定値)に合わせて元に戻す。

⑤ 電源スイッチを入れなおす。

⑥ レベルタンク用メンテカバーを取り付ける。

2 保守点検と清掃について

⚠ 注意

- ・電源を入れたまま作業をしないでください。感電や火傷・裂傷の危険があります。また、火傷の危険があるため、加湿皿の清掃は装置停止後 30 分以上経ってから行ってください。
- ・水に濡れると感電する恐れがあります。槽内に水を直接かけて洗わないでください。
- ・鋭利な部分を持つ工具を使う時は、パッキン部分や内槽などに傷をつけないでください。
- ・凝縮器に、ほこりやゴミが付着すると圧縮機を焼損する恐れがあります。

保守点検項目	保守の要領	チェック
槽内の清掃	純水等で拭く	□
排水溝の清掃	ブラシ等で清掃	
凝縮器用フィルタの清掃	→2.1 凝縮器用フィルタの清掃 参照	□
配電盤カバーの清掃	掃除機などで、ほこりを吸い取る	□
電源接続部の確認	汚れ、ゆるみのないことを確認	
加湿器の清掃※ ²	吸込口カバーを取りはずし、加湿皿はブラシ等で、加湿ヒータは柔らかい布とブラシで表面の汚れを洗い落とす	□
給水タンクの清掃	→2.2 給水タンクの清掃 参照	
レベルタンクの清掃	→2.3 レベルタンクの清掃方法 参照	□
湿度検出端のフィルタ交換	→2.4 湿度検出端のフィルタ交換 参照	

※1：凝縮器用フィルタが目詰まりすると、冷凍機トラブルの原因になるだけでなく、圧縮機の寿命も短くなります。設置環境に応じて清掃する回数を増やしてください。

※2：加湿皿の上部に冷却器があります。冷却器フィンでけがをする恐れがありますので、清掃時は必ず手袋を着用してください。

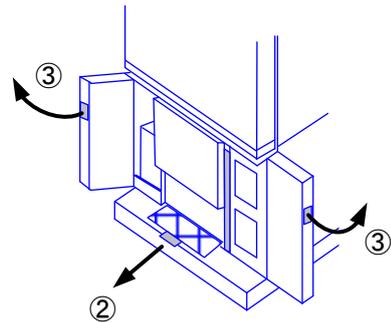
2. 1 凝縮器用フィルタの清掃

装置下部の冷凍機吸込口には、ホコリ吸い込み防止のために、凝縮器用フィルタが2枚取り付けられています。

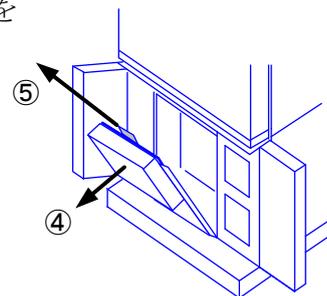
凝縮器用フィルタは、1ヶ月に1度のペースで目詰まりや汚れの点検をお願いします。凝縮器用フィルタの汚れがひどい場合には清掃をしてください。設置環境に応じて、点検や清掃の回数を増やしてください。

■ 凝縮器用フィルタの清掃は、①～⑦の手順で行ってください。

- ① 装置の運転を停止し、電源スイッチ（漏電ブレーカ）をOFFにする。
- ② 図を参照し、装置下部の凝縮器用フィルタを引き出す。（1枚目）
- ③ 左右の扉を開ける。



- ④ 凝縮器用フィルタ収納部の左右側面の上の方を持ち、少し強めに引く。
- ⑤ 凝縮器用フィルタを引き出す。（2枚目）



- ⑥ フィルタの汚れを掃除機で吸い取る。
汚れがひどい場合は、フィルタを中性洗剤で洗浄し、陰干しで乾燥する。
- ⑦ 凝縮器用フィルタを装置に戻す。

凝縮器用フィルタ収納部を装置に戻すときは、凝縮器用フィルタ収納部の上下2ヶ所（左右合計4ヶ所）にあるキャッチャーに確実に収めてください。

2. 2 給水タンクの清掃

純水を使用しているため、給水タンク内にカビや微生物などが侵入・増殖すると水質が悪化し、加湿器など他の部品の機能が低下する恐れがあります。給水タンク内部は、3ヶ月に1度以上のペースで清掃をお願いします。

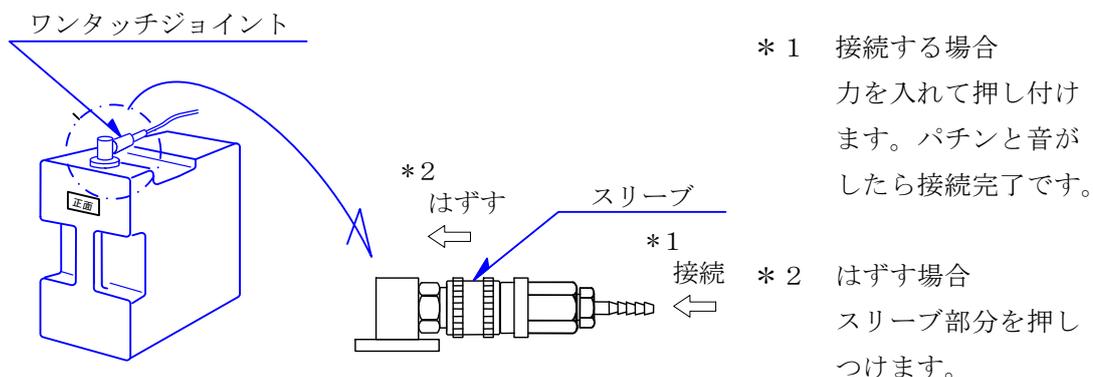
ここでは、内蔵給水タンクへの清掃方法について説明します。内蔵給水タンク以外の給水仕様（純水直結・自動給水など）を選択された場合は、各給水方式の手順に沿って、清掃してください。

■ 給水タンクの清掃は、①～⑨の手順で行ってください。

- ① 装置の運転を停止し、電源スイッチ（漏電ブレーカ）をOFFにする。
- ② 本体左下部の給水タンク収納ユニットカバーを開く。
- ③ タンク上部に取り付けられているワンタッチジョイントを取りはずし、給水タンクを取り出す。
*ワンタッチジョイントの取りはずしについては、下記の<ワンタッチジョイントの接続/取りはずし>を参照してください。
- ④ タンクのキャップを取りはずし、キャップにつながったホースの先のストレーナをブラシなどで軽くこすって清掃する。
- ⑤ 取り出した給水タンクに純水を入れ、タンクを振り洗う。
- ⑥ 清掃後、タンクのキャップと「正面」のシールが手前になることを確認して、給水タンクを台に乗せる。
- ⑦ 給水タンクに装置運転のための純水を給水し、タンクのキャップを締める。
- ⑧ ワンタッチジョイントを確実に取り付ける。
- ⑨ ワンタッチジョイントに取り付けられているホースが折れないことを確認しながら、給水タンクを収納する。

清掃後のワンタッチジョイントの接続や、給水タンクとホースの収納は確実に行ってください。給水不良や、漏水の原因となります。

<ワンタッチジョイントの接続/取りはずし>

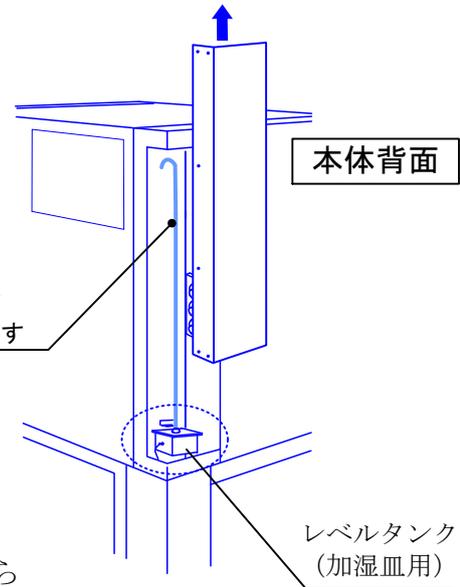


2.3 レベルタンクの点検と清掃

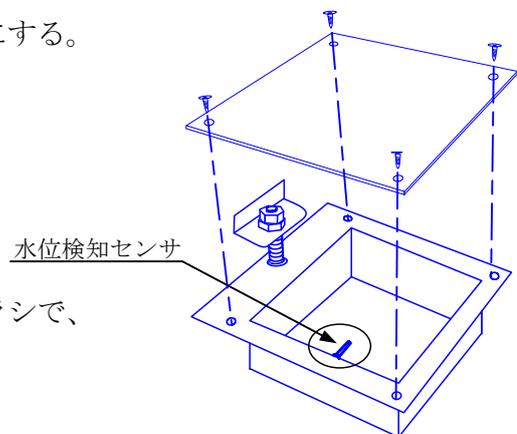
湿度運転を行うと、レベルタンクの内側に不純物などが付着し、水位センサが誤作動する可能性があります。12ヶ月に1度の目安で点検し、定期的に清掃をお願いします。

■ レベルタンクの点検と清掃を、①～⑦の手順で行ってください。

- ① 装置の運転を停止する。
- ② レベルタンク用メンテカバーのネジをドライバではずし、手前に引いてははずす。



- ③ 操作パネルを使用して、手動排水をする。
(6章 §手動排水 参照)
装置から強制的に排水されます。
排水はおよそ5分で終了しますが、レベルタンクに接続されているチューブから水が無くなれば排水は完了です。
- ④ 電源スイッチ（漏電ブレーカ）をOFFにする。
手動排水も停止します。



- ⑤ レベルタンクの蓋を開ける。
- ⑥ レベルタンクの内部は毛の柔らかいブラシで、水位検知センサはウエスで清掃する。
- ⑦ 清掃後、レベルタンクの蓋を閉め、メンテカバーを元に戻す。

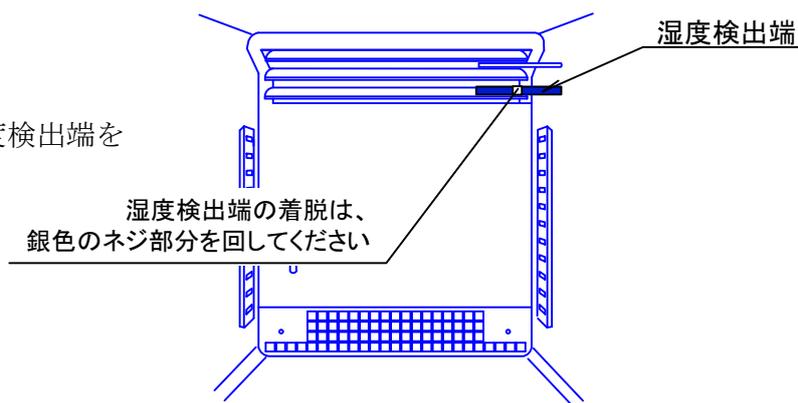
2. 4 湿度検出端のフィルタ交換

湿度検出端フィルタが目詰まりを起こすと、正しい計測ができない場合がありますので、保護フィルタを取りはずし定期的に交換してください。（推奨 1年）

■湿度検出端保護フィルタの交換は、①～⑦の手順で行ってください。

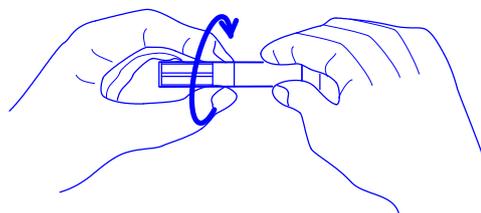
- ① 装置の運転を停止し、電源スイッチ（漏電ブレーカ）をOFFにする。

- ② 槽内にある湿度検出端を取りはずす。

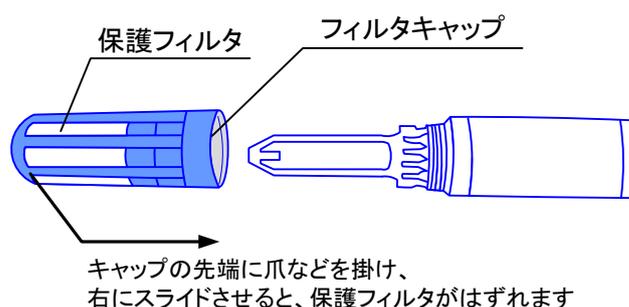


- ③ 湿度検出端を確実に持ち、先端部を反時計回りに回してフィルタキャップを引き抜く。

*保護フィルタにはできるだけ触れないようにしてください。



- ④ 保護フィルタを取り出す。



- ⑤ 新しい保護フィルタを取り付け、フィルタキャップを湿度検出端に取り付ける。
- ⑥ 装置に湿度検出端を確実に取り付ける。
- ⑦ 電源スイッチ（漏電ブレーカ）をONにし、温湿度が表示されることを確認する。

memo
